

## 5. 図書館評価

図書館運営を振り返り、これからの図書館がめざすべきビジョンを明確にするとともに、地域との情報共有を図る仕組みとして平成20年度から「豊中市立図書館評価システム」（以下「評価システム」という。）を導入し、図書館運営に関する自己点検と外部評価を実施している。平成22年度の図書館運営の振り返りとして「評価システム」評価表「リーディング項目」について自己点検・評価を実施し、現状把握と業務分析・見直し等を行った。概略は以下のとおりである。

経営・運営・管理状況に関する評価では、「市民参画による運営が図られているか」と「その他の運営の健全化への対応ははかられているか」の項目に加えて、平成22年度新たに「図書館として適切な経営が行われているか」の項目について目標値を達成した。これは、人材育成において、国立国会図書館関西館からの職員派遣などを活用して図書館の課題に対応した計画的な研修に取り組んだ結果であり、回数、参加人数ともに増加している。また、「市民にとって質の高いサービスが提供されているか」の項目について改善が見られた。これは、4地域館において全祝日開館を実施したことなどによる。一方で「図書館の情報発信・PRは十分にされているか」の項目については評価ランクが低下。これは、紙媒体での広報活動が減少したことなどによるが、新たな取り組みとして「北摂アーカイブス写真展」などを行い、好評を得た。今後も多面的な広報活動を展開していきたい。

図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価では、「他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか。」「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様な情報ニーズにこえているか。」の項目について目標値を達成した。これは、図書館未整備地域の市民の利便性向上のため箕面市に加え、吹田市と市境の3館に限定して広域利用試行開始の協定を結んだことによる。また、市内の公共施設との連携・協力は事業回数も増加し、一過性のものでなく定着した取り組みとなっているものが多い。「市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できているか。」「子どもの読書活動を推進しているか。」「学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか。」「地域の情報センターとして積極的に活動しているか。」「市民との協働事業を推進しているか。」「市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか。」の各項目について平成21年度同様目標値は達成できなかったが、8割以上の達成となっている。そして「ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか。」の項目については改善が見られ、こちらも8割以上の達成となっている。これは、WEBでの予約件数の増加等ホームページ上でのサービスや図書館内でのインターネット端末の利用が広まったことによる。一方「高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか。」の項目については、前年同様目標の8割未満の達成に留まっている。潜在的な利用者の掘りおこしや、PRなどに課題があるが、市民や他の施設との連携・協力により必要とする人に情報が届くよう取り組みをすすめていきたい。